

テハ從來屢本院ノ詢議ヲ經タル勞働諸條約  
案ト異ナル所ナシ而シテ之カ處理ニ關シテ  
ハ條約案其ノモノノ趣旨ハ不可ナキモ原案  
ノ如ク實際問題トシテ我國現下ノ實情ニ鑑  
ミ今直ニ之ヲ採用スルコトハ甚夕困難ナル  
モノト認ム仍テ審査委員會ニ於テハ本件ノ  
三條約ニ對スル處理案ハ何レモ原案ノ通り  
之ヲ可決セラレ然ルハキ旨全會一致ヲ以テ  
議決シタリ  
右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

議長(倉富)

ハシ

別ニ御發言ナキ故直ニ採決ニ付ス

本案賛成ノ各位ノ起立ヲ請フ

(全員起立)

議長(倉富)

全會一致可決シタリ

○

議長(倉富)

次ニ

國際電氣通信條約御批准ノ件

ヲ議題ニ供ス本案モ先例ニ依リ大體議ニ止

朗讀ヲ省略シテ審査報告ヲ爲サシム

報告員(三上) 謹テ審査シタルニ從來電氣通信

ニ關スル國際會議及條約ニハ有線電氣通信

ニ係ルモノト無線電氣通信ニ係ルモノトノ

二種アリタリ然ルニ大戰後國際間ニ於テ右

兩會議及兩條約ヲ併合スルノ議起リ大正十

四年及昭和三年ノ萬國電信會議並昭和二年

ノ國際無線電信會議ニ於テモ其ノ趣旨ノ希

望表明アリタルニ因リ客年「マドリッド」ニ於

テ右兩會議ヲ同時ニ開催シ現行ノ明治八年

ノ萬國電信條約及昭和二年ノ國際無線電信

條約ニ代ルヘキ一條約ヲ協定シ同年十二月

九日帝國全權委員ハ日本本土朝鮮臺灣樺太

關東州租借地及帝國ノ委任統治ノ下ニ在ル

南洋群島ノ爲ニ列國全權委員ト共ニ之ニ署

名シタリ是レ今回御諮詢ノ本件ノ條約ナリ

本條約ハ前陳萬國電信條約及國際無線電信

條約ヲ併合統一シテ一切ノ電氣通信ニ關ス

ル單一條約ト爲シ且此ノ機會ニ於テ現行兩

條約締結以後ニ於ケル經驗ニ鑑ミ必要ト認

ムル改正ヲ加ヘムトスルモノニシテ今其ノ  
内容ニ付從來ノ兩條約ト異ナル所ノ要點ヲ  
擧クレハ次ノ如シ

(一) 國際電氣通信聯合ノ形成

從來國際有線電信ニ付テハ萬國電信條約  
ニ依リ電信聯合ト稱スルモノ存在シ又國  
際無線電信ニ付テハ特ニ聯合ト稱ハサル  
モ事實上國際無線電信條約ニ依リ聯合ト  
認ムヘキモノ存在シタルカ本條約ハ此等  
ノ聯合ニ代ルヘキモノトシテ單一ナル國

際電氣通信聯合ヲ形成スルモノトセリ

(二) 附屬規則ニ關スル改正

條約ノ細則ヲ定ムル所ノ附屬規則トシテ  
現行ノ萬國電信條約ニハ單一ノ國際業務  
規則アリ又國際無線電信條約ニハ一般規  
則及追加規則ノ二種アリ然ルニ本條約ノ  
附屬規則ハ電信規則電話規則及無線通信  
規則ノ三種ト爲シ締約政府ハ少クトモ其  
ノ一種ニ參加スルコトヲ要スルモノトシ  
各規則ハ條約トハ別ニ加入及廢棄ノ目的

タルコトヲ得ルモノトセリ

(三) 舊條約ノ廢止

現行ノ二條約ニ於テハ其ノ各舊條約トノ  
間ニ如何ナル關係ヲ生スルヤ明文ナカリ  
シモ本條約ニ於テハ從來ノ諸種ノ舊條約  
ハ新條約ニ依リ締約政府間ニ於テ廢止セ  
ラレ且之ニ代ルモノナルコトヲ明ニシタ  
リ

(四) 仲裁裁判制度ニ關スル改正

現行ノ萬國電信條約ニハ仲裁裁判ニ關ス

ル規定ナク又國際無線電信條約ニハ其ノ  
規定アルモ仲裁裁判ノ行ハルル場合ヲ二  
國ノ紛争ノミニ限定シタルノミナラス其  
ノ條規モ頗簡單ナリシカ本條約ハ之ニ關  
シ詳細ナル規定ヲ設ケ(イ)數箇國間ノ紛争  
モ亦之ヲ仲裁裁判ニ付シ得ヘキモノト爲  
シ(ロ)紛争カ外交上ノ手續ニ依リ解決セラ  
レサルトキニ於テ之ヲ仲裁裁判ニ付スヘ  
キモノトシ(ハ)當事者間ニ別ニ紛争解決ニ  
關スル條約アルトキハ協定ニ依リ其ノ手



續ニ依ルコトヲ得ルモノナルコトヲ明ニ  
シ(ニ)政府ノ外個人又ハ主管廳モ亦仲裁者  
タリ得ルモノトシ(ホ)國際無線電信條約ニ  
於テハ仲裁裁判ハ二仲裁者ヲシテ裁定セ  
シムルヲ原則トシ意見一致セサルトキハ  
更ニ一仲裁者ヲ参加セシムルコトトシタ  
ルモ本條約ハ原則トシテ初メヨリ三仲裁  
者ヲシテ裁定ヲ行ハシムルコトトシ(ハ)尤  
モ協定アレハ單一仲裁者ノミヲ以テモ裁  
定ヲ爲サシムルコトヲ得ルモノトシ(ト)裁

判手續ハ仲裁者ニ於テ自ラ之ヲ定ムヘキ  
モノトシ(チ)紛爭取調ノ費用及仲裁ノ費用  
ノ負擔者ノ事ヲ規定シタリ

(五)聯合事務局ニ關スル規定ノ改正

現行二條約ニ於テハ聯合事務局ニ關スル  
規定ハ各其ノ大綱ノミヲ條約中ニ掲ケ其  
ノ詳細ハ之ヲ附屬規則ニ讓リタルモ本條  
約ニ於テハ同局ノ任務費用等ニ關スル根  
本的ノ總則的規定ハ之ヲ條約中ニ收メ其  
ノ他ノ規定ノミヲ附屬規則ニ讓リ又條約

併合ニ伴ヒ事務局ノ名稱ヲ國際電氣通信  
聯合事務局ト改メタリ

(六) 會議ニ關スル規定ノ變更

(イ) 條約及附屬規則改正ノ爲ノ會議ニ關シ  
萬國電信條約ニ於テハ附屬規則改正ノ爲  
ニスル行政的會議即チ主管廳會議ノ開催  
ノミニ付規定シ國際無線電信條約ニ於テ  
ハ條約及附屬規則改正ノ爲全權委員ノ會  
議ヲ開催スヘキコトヲ定メタルカ本條約  
ハ條約改正ノ爲ノ會議ト附屬規則改正ノ

爲ノ會議トヲ分別シ前者ニ付テハ全權委  
員ノ會議後者ニ付テハ主管廳會議ヲ開催  
スルコトトシ(ロ)從來萬國電信會議及國際  
無線電信會議ニ於テハ事實上電信會社ノ  
如キ私企業カ表決權ヲ有セスシテ討議ニ  
參加スルコトヲ認メタルカ本條約ハ明文  
ヲ以テ之ヲ規定シ(ハ)會議ノ用語ニ關シテ  
ハ現行ノ二條約中ニ別段ノ規定ナク從來  
會議毎ニ定メラルル内部規則ニ依リ佛語  
ヲ使用シタルカ本條約ニ於テハ佛英兩語

ヲ以テ會議用語トス尤モ陳述者カ佛語又  
ハ英語ノ翻譯ヲ供スルコトヲ條件トシテ  
如何ナル國語ヲモ使用シ得ルコトトシタ  
リ

(七) 公衆ノ無差別待遇

從來ノ條約中ニハ國際電氣通信業務ヲ利  
用スル公衆ノ取扱ニ關シ差別的待遇ヲ爲  
ササルヘキ旨ノ明文ナカリシモ本條約ハ  
業務料金等ニ付一切ノ發信人ニ對シ待遇  
同一タルヘキ旨ノ原則ヲ掲ケタリ

(八) 通信ノ秘密保護ノ例外

本條約ハ從來ノ條約ニ於テ認メラレタル  
通信ノ秘密嚴守ノ原則ニ對シ實際上ノ必  
要ニ基キ刑事訴訟法其ノ他ノ國內法令ノ  
適用又ハ條約ノ施行ヲ確保スル爲ニハ締  
約政府ハ國際通信ノ秘密ヲ制限シ即チ之  
ヲ權限アル機關ニ通知スル權利ヲ有スル  
旨ノ例外ヲ新ニ設ケタリ

(九) 公序良俗ニ反スル電話通信ノ切斷

現行條約ニ於テハ國際電話ニ關シ公ノ秩

序又ハ善良ノ風俗ニ反スル通信ノ切斷ニ付別段ノ規定ナカリシモ本條約ハ右通信ノ切斷ヲ爲シ得ル旨ノ明文ヲ設ケタリ

(十) 料金ニ關スル規定ノ改正

現行ノ萬國電信條約ニ於テハ二國間ノ同一線路ヲ經由スル通信ノ料金ハ雙方ニ於テ同一タルヘキコト、料金額ハ關係政府ノ協議ニ依リ之ヲ定ムルコト、料金ハ何時ニテモ改正シ得ヘキコト、局報ノ電送ハ無料ナルヘキコト等電信料金ニ關スル根本的

ノ條件ヲ定メ料金ノ細目ハ附屬規則ヲ以テ規定スヘキモノト爲シ國際無線電信條約ニ於テハ料金及料金免除ハ凡テ附屬規則ニ委任セルカ本條約ハ後者ノ例ニ依ヒ料金ノ事ハ全部附屬規則ノ定ムル所ニ依ルコトトシタリ

(十一) 貨幣單位ノ制定

現行ノ萬國電信條約ニ於テハ料金ノ構成等ニ用フル貨幣單位ハ之ヲフラント定メ其ノ内容本質ハ附屬規則中ニ之ヲ規定シ



タルモ本條約ハ之ヲ其ノ規定中ニ取入レ  
タリ

(三)呼出符號ノ不正使用ノ取締ニ關スル規定  
ノ改正

本條約ハ無線通信局カ自局ニ割當ラレサ  
ル呼出符號ヲ使用スルコトニ對シ締約政  
府ハ之カ防遏ノ爲必要ナル處置ヲ執ルヘ  
キコトヲ新ニ定メタリ

(十三)官報ヲ出ス者ノ資格ニ關スル規定

現行ノ萬國電信條約ニ於テハ官報發出ノ

資格アル者ヲ國ノ元首大臣陸海軍司令長  
官外交官及領事ニ限リタルモ本條約ハ其  
ノ範圍ヲ擴張シテ殖民地保護領海外領土  
又ハ主權權力若ハ委任統治ノ下ニ在ル地  
域ノ長官空軍ノ司令長官及國際聯盟事務  
總長ニ迄及ホシタリ

要スルニ本條約ハ實際ノ必要ニ鑑ミ有線無  
線ノ電氣通信ニ關スル現在ノ國際制度ヲ整  
備シ其ノ運用ヲ圓滑ナラシムル爲從來ノ關  
係二條約ヲ併合統一シ併セテ適當ナル改訂

ヲ施サムトスルモノニシテ其ノ旨意ニ於テ  
何等不可ナク其ノ各條項亦別ニ支障ノ廉ナ  
キニ由リ本條約ハ之ヲ御批准アラセラレテ  
可ナリ仍テ本件ハ此ノ儘之ヲ可決セラレ然  
ルヘシト思料ス

右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

議長

(倉富)

別ニ御發言ナキ故直ニ採決ニ付ス

ヘシ

本案賛成ノ各位ノ起立ヲ請フ

(全員起立)

議長

(倉富)

全會一致可決シタリ

○

議長

(倉富)

次ニ

關東廳官制中改正ノ件

ヲ議題ニ供ス第一讀會ヲ開キ朗讀ヲ省略シ  
テ審査報告ヲ為サシム

報告員

(三上)

謹テ審査シタルニ本件ハ關東廳

ニ於テ阿片及麻藥類ノ取締ニ關スル事務増  
加ノ爲屬及技手各一人ヲ増員セムトスルモ